青森県経済統計報告

平成 21 年 8 月 3 日
企画政策部統計分析課

１　青森県の推計人口（平成２１年７月１日現在）…… 1

県　人　口	1,383,903 人（対前月 547 人　減少）
自然動態	538 人減少（出生者数　780 人、死亡者数　1,318 人）
社会動態	9 人減少（転入者数　1,468 人、転出者数　1,477 人）

２　本県の経済動向（平成 21 年 5 月・6 月の経済指標を中心として）

（１）経済概況

本県経済は、生産面の一部に下げ止まりに向けた動きがみられるものの、消費面、雇用面を中心に依然厳しい状況が続いている。

（２）主要経済指標の動向

(2-1)　製造業の生産動向　平成 21 年 5 月の青森県鉱工業生産指数(平成 17 年＝100)は、季節調整済指数が 83.7 で、前月比 0.7%の上昇となり、2 ヶ月連続で前月を上回った。また、原指数は 79.0 で、前年同月比 28.3%の低下となり、8 ヶ月連続で前年同月を下回った。 … 2

(2-2)　雇用情勢　平成 21 年 5 月の定期給与は 218,366 円で前年同月比 2.9%減となった。総実労働時間は 147.0 時間で前年同月比 4.0%減、所定外労働時間は 7.6 時間で前年同月比 20.0%減となった。
平成 21 年 6 月の有効求人倍率（季節調整値）は 0.29 倍で、前月比 0.03 ポイント上回った。 … 3

(2-3)　物価　平成 21 年 6 月の青森市消費者物価指数（平成 17 年=100)は、総合指数が 100.1 となり、前月と比べ 0.1%の下落、前年同月と比べ 3.0%の下落となった。 … 4

(2-4)　個人消費　平成 21 年 5 月の大型小売店販売額は、全店舗ベースが 134 億円で前年同月比 0.5%減と 6 ヶ月連続で、既存店ベースでは 3.3%減と 10 ヶ月連続で減少となった。
平成 21 年 6 月の軽自動車を含めた乗用車新車登録・届出台数は 3,338 台で、前年同月比 8.5%の減となり、11 ヶ月連続で前年を下回った。 … 5

(2-5)　住宅建設　平成 21 年 6 月の新設住宅着工戸数は 514 戸で、前年同月比 27.5%減となり 3 ヶ月連続で前年を下回った。 … 6

(2-6)　電　力使用量　平成 21 年 6 月の大口電力使用量は 1 億 9,024 万 kWh で、前年同月比 14.3%減となり、7 ヶ月連続で前年を下回った。 … 6

（３）景気動向指数（平成２１年５月分）…… 7

先行指数	３３．３％（１５か月連続で５０％を下回った）
一致指数	４３．８％（７か月連続で５０％を下回った）
遅行指数	０．０％（１０か月連続で５０％を下回った）

（４）青森県景気ウォッチャー調査（平成２１年７月期）…… 8

３ヶ月前と比べた景気の現状判断ＤＩ･･･37.0（前期比 12.5 ポイント増、8 期連続で 50 を下回る）

３ヶ月後の景気の先行き判断ＤＩ･･･43.8（前期比 6.3 ポイント増、8 期連続で 50 を下回る）

１　青森県の推計人口（平成２１年７月１日現在）

【概　況】

平成２１年７月１日現在の本県推計人口は、１，３８３，９０３人で、前月に比べ５４７人の減少となった。

○自然動態

出生者数が７８０人、死亡者数が１，３１８人で、５３８人の減少となった。

○社会動態

転入者数が１，４６８人、転出者数が１，４７７人で、９人の減少となった。

総人口の推移　（単位：人）

	総数	男	女	対前月増減率	増減数	自然増減数	出生者数	死亡者数	社会増減数	県外からの転入者数	県外への転出者数
昭45.10. 1	1,427,520	685,477	742,043	－	10,929	－	－	－	－	－	－
50.10. 1	1,468,646	707,232	761,414	－	41,126	－	－	－	－	－	－
55.10. 1	1,523,907	735,444	788,463	－	55,261	－	－	－	－	－	－
60.10. 1	1,524,448	731,439	793,009	－	541	－	－	－	－	－	－
平 2.10. 1	1,482,873	704,758	778,115	－	−41,575	－	－	－	－	－	－
7.10. 1	1,481,663	704,189	777,474	－	−1,210	－	－	－	－	－	－
12.10. 1	1,475,728	702,573	773,155	－	−5,935	－	－	－	－	－	－
17.10. 1	1,436,657	679,077	757,580	－	−39,071	－	－	－	－	－	－
20. 7. 1	1,395,953	656,474	739,479	−0.051%	−706	−357	862	1,219	−349	1,366	1,715
20. 8. 1	1,395,716	656,395	739,321	−0.017%	−237	−267	895	1,162	30	1,886	1,856
20. 9. 1	1,395,208	656,115	739,093	−0.036%	−508	−271	858	1,129	−237	1,907	2,144
20.10. 1	1,394,806	655,857	738,949	−0.029%	−402	−262	905	1,167	−140	1,688	1,828
20.11. 1	1,394,366	655,555	738,811	−0.032%	−440	−440	875	1,315	0	1,738	1,738
20.12. 1	1,393,670	655,232	738,438	−0.050%	−696	−567	739	1,306	−129	1,222	1,351
21. 1. 1	1,392,976	654,990	737,986	−0.050%	−694	−536	813	1,349	−158	1,265	1,423
21. 2. 1	1,392,029	654,468	737,561	−0.068%	−947	−594	901	1,495	−353	1,286	1,639
21. 3. 1	1,391,164	653,996	737,168	−0.062%	−865	−557	679	1,236	−308	1,259	1,567
21. 4. 1	1,385,598	651,094	734,504	−0.400%	−5,566	−513	814	1,327	−5,053	4,158	9,211
21. 5. 1	1,385,096	650,947	734,149	−0.036%	−502	−437	829	1,266	−65	4,232	4,297
21. 6. 1	1,384,450	650,589	733,861	−0.047%	−646	−464	796	1,260	−182	1,367	1,549
21. 7. 1	1,383,903	650,327	733,576	−0.040%	−547	−538	780	1,318	−9	1,468	1,477

６月中の人口動態の推移　（単位：人）

年　月		平11.6	12.6	13.6	14.6	15.6	16.6	17.6	18.6	19.6	20.6	21.6
自然動態	出生者数	1,160	1,142	1,005	967	992	985	831	910	812	862	780
	死亡者数	1,034	971	1,008	1,011	1,045	1,064	1,151	1,189	1,173	1,219	1,318
	自然増減数	126	171	−3	−44	−53	−79	−320	−279	−361	−357	−538
社会動態	県外からの転入者数	1,554	1,567	1,451	1,406	1,559	1,413	1,434	1,345	1,233	1,366	1,468
	県外への転出者数	1,533	1,653	1,658	1,655	1,637	1,729	1,782	1,807	1,742	1,715	1,477
	社会増減数	21	−86	−207	−249	−78	−316	−348	−462	−509	−349	−9

※１　昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17年は国勢調査人口（確定値）。

※２　増減数は、昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17年が前回国勢調査、その他が前月推計人口に対するものである。

※３　算出方法

県の推計人口＝前月の人口＋自然増減数（出生者数－死亡者数）＋社会増減数（県外からの転入者数－県外への転出者数）

２　本県の経済動向

（２）主要経済指標の動向

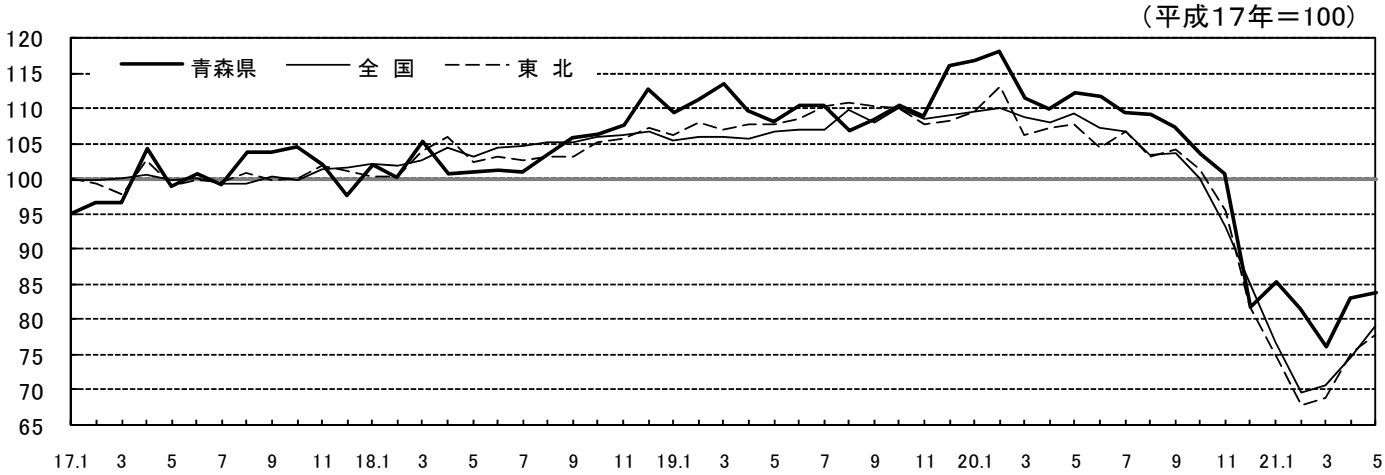
（２－１）製造業の生産

平成２１年５月の青森県鉱工業生産指数（平成 17 年＝100）は、季節調整済指数が 83.7 で、前月比 0.7%の上昇となり、２ヶ月連続で前月を上回った。また、原指数は 79.0 で、前年同月比 28.3%の低下となり、８ヶ月連続で前年同月を下回った。

季節調整済指数で前月からの動きを見ると、食料品工業、一般機械工業、電気機械工業などが上昇に寄与した一方、電子部品・デバイス工業、パルプ・紙・紙加工品工業、金属製品工業などが低下し、鉱工業全体では 0.7%の上昇となった。

青森県･全国･東北の鉱工業生産指数推移（季節調整済指数）

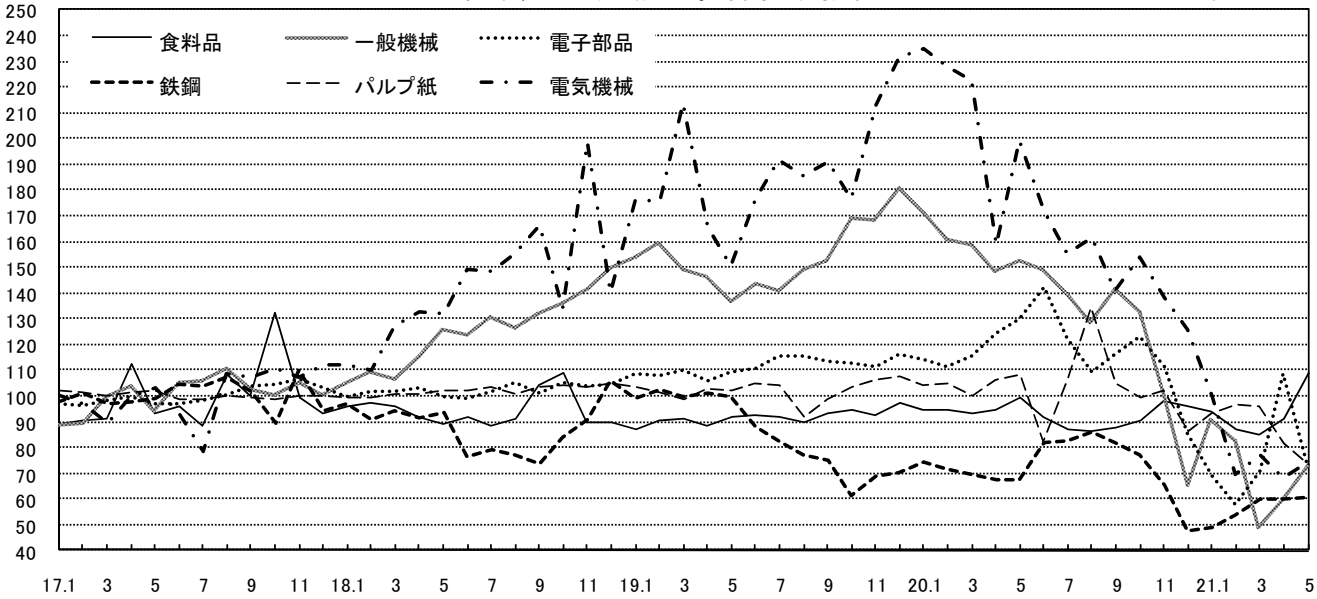
（平成17年＝100）



◎業種別動向（前月比）　鉱工業全体 +0.7%

プ　ラ　ス			マ　イ　ナ　ス		
業　　種	前月比(%)	寄与率(%)	業　　種	前月比(%)	寄与率(%)
食料品工業	19.6	491.6	電子部品・デバイス工業	-33.2	-489.3
一般機械工業	21.6	200.3	ﾊﾟﾙﾌﾟ･紙･紙加工品工業	-10.4	-84.3
電気機械工業	8.6	39.9	金属製品工業	-11.2	-56.0
窯業･土石製品工業	7.4	20.8	繊維工業	-6.3	-27.0
石油・石炭製品工業	107.1	20.4	非鉄金属工業	-8.3	-21.8

主要業種の生産動向(季節調整済指数)　（平成17年＝100）



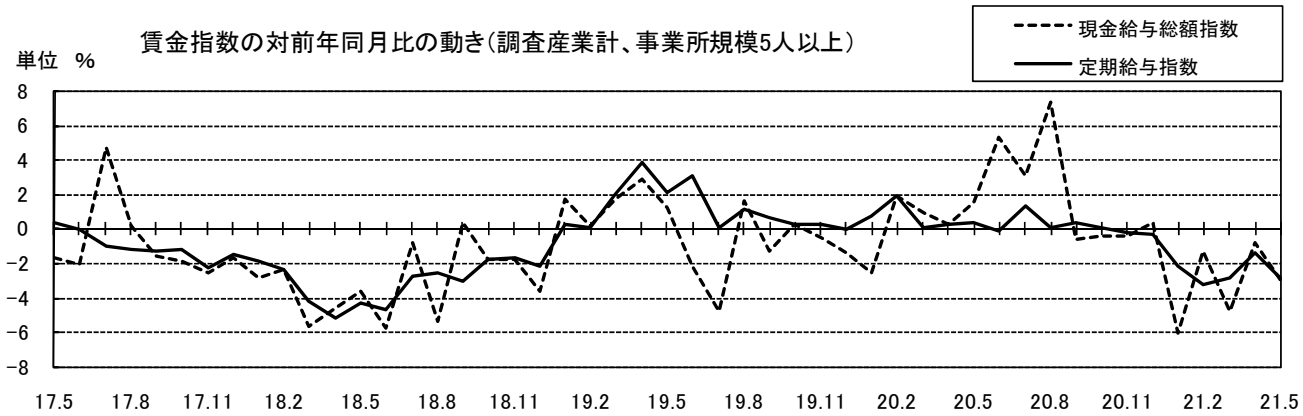
資料：県統計分析課「青森県鉱工業生産指数（速報）」

（２－２）雇用情勢

平成２１年５月の定期給与は 218,366 円で定期給与指数（平成 17 年＝100）では 94.9 となり、前年同月比 2.9%減（現金給与総額 221,282 円、現金給与総額指数 81.1、前年同月比 3.0%減）となった。実額で比較した定期給与の全国対比は 83.9 となった。

総実労働時間は147.0時間で、総実労働時間指数は92.3となり、前年同月比4.0%減となった。このうち、所定外労働時間は 7.6 時間で、所定外労働時間指数は 76.8 となり、前年同月比 20.0%減となった。

平成２１年６月の有効求人倍率（季節調整値）は 0.29 倍で、前月比 0.03 ポイント上回った。

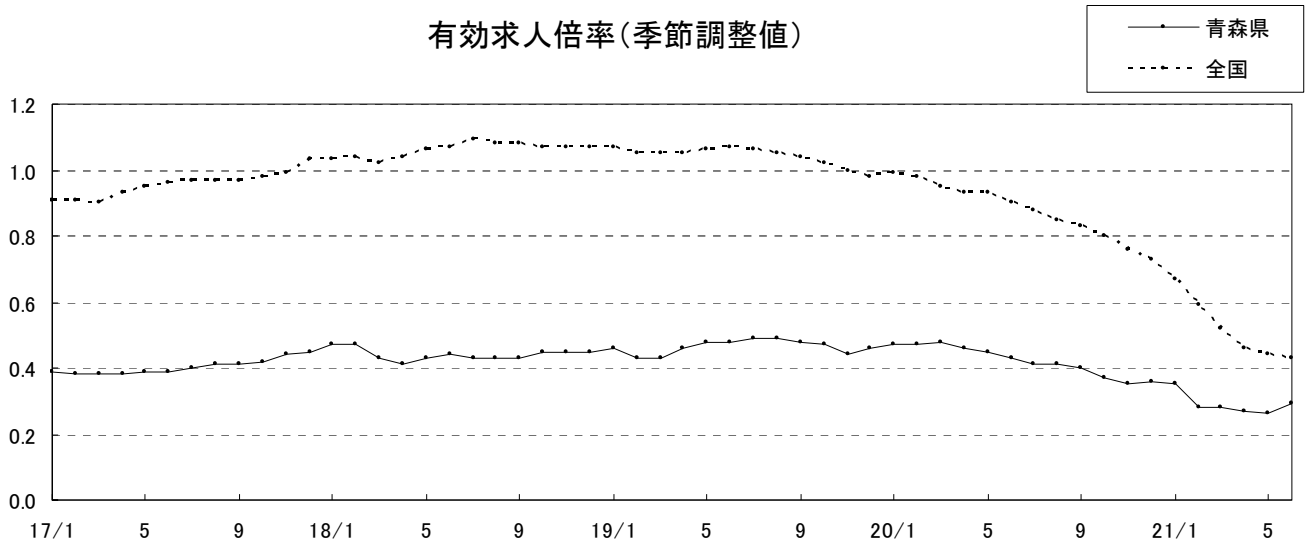


賃金及び労働時間の動き（調査産業計、事業所規模5人以上）

	実　数		指数（H17=100）		対前年同月増減率	
	県	全 国	県	全国	県	全 国
現金給与総額	221,282 円	268,319 円	81.1	80.9	−3.0 %	−2.5 %
定 期 給 与	218,366 円	260,391 円	94.9	96.4	−2.9 %	−2.6 %
特 別 給 与	2,916 円	7,928 円	—	—	—	4.3 %
総実労働時間	147.0 時間	137.9 時間	92.3	91.4	−4.0 %	−5.8 %
所定内労働時間	139.4 時間	129.2 時間	93.3	92.2	−2.9 %	−4.8 %
所定外労働時間	7.6 時間	8.7 時間	76.8	82.1	−20.0 %	−18.4 %

（注）1.定期給与とは「きまって支給する給与」のことである。
　　2.前年同月比は指数によって算出している。

資料：県統計分析課「毎月勤労統計調査結果（速報）」



資料：青森労働局職業安定部職業安定課「職業安定業務取扱月報」

（２－３）物価

平成 21 年 6 月の青森市消費者物価指数（平成 17 年=100)は、総合指数が 100.1 となり、前月と比べ 0.1%の下落、前年同月と比べ 3.0%の下落となった。

生鮮食品を除く総合指数は 99.7 となり､前月と同水準､前年同月と比べ 3.4%の下落となった。

食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数は 97.9 となり、前月と比べ 0.2%の下落、前年同月と比べ 0.5%の下落となった。

総合指数が前月と比べ 0.1%の下落となった内訳を寄与度でみると、食料、教養娯楽などの下落が要因となっている。

総合指数の前年同月と比べ 3.0%の下落となった内訳を寄与度でみると、光熱・水道、交通・通信などの下落が要因となっている。

図1　総合指数の動き

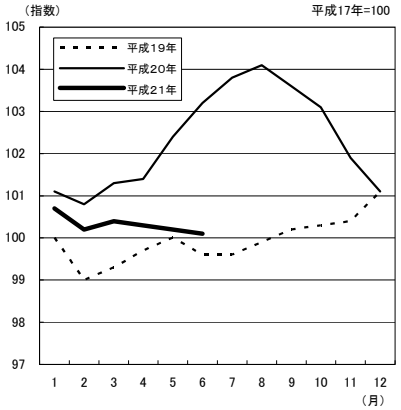


図2　生鮮食品を除く総合指数の動き

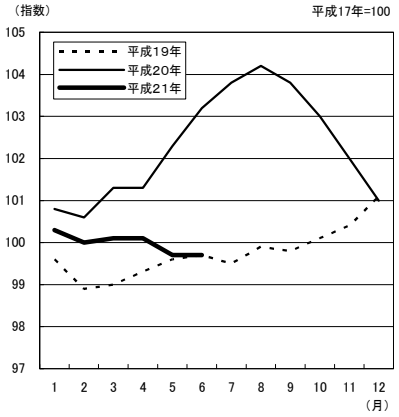
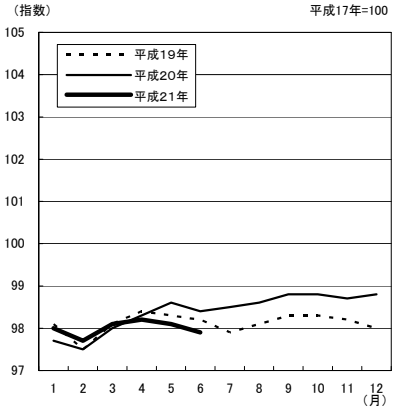


図3　食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数の動き



10大費目指数の動き

（平成 17 年=100）

	総合	生鮮食品を除く総合	持家の帰属家賃を除く総合	食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合	食料	生鮮食品	住居	光熱・水道	家具・家事用品	被服及び履物	保健医療	交通・通信	教育	教養娯楽	諸雑費
当月指数	100.1	99.7	100.5	97.9	103.1	105.9	98.2	104.2	96.2	100.9	98.2	98.5	102.1	92.9	101.5
前月比(%)	▲ 0.1	0.0	▲ 0.2	▲ 0.2	▲ 0.8	▲ 3.1	▲ 0.1	1.0	0.1	0.4	0.1	0.5	0.0	▲ 1.1	0.0
寄与度	▲ 0.10	0.00	▲ 0.17	▲ 0.13	▲ 0.23	▲ 0.19	▲ 0.02	0.10	0.00	0.02	0.00	0.05	0.00	▲ 0.10	0.00
前年同月比(%)	▲ 3.0	▲ 3.4	▲ 3.3	▲ 0.5	0.5	2.5	▲ 1.0	▲ 17.0	0.0	1.5	▲ 1.1	▲ 7.3	0.4	▲ 1.1	▲ 0.2
寄与度	▲ 3.00	▲ 3.20	▲ 2.77	▲ 0.31	0.14	0.14	▲ 0.20	▲ 2.06	0.00	0.06	▲ 0.04	▲ 0.81	0.01	▲ 0.10	▲ 0.01

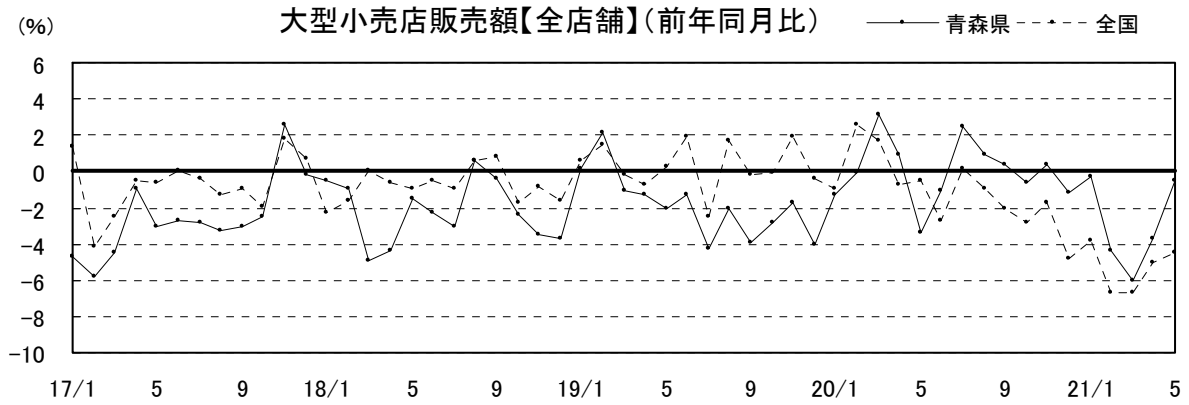
資料：県統計分析課「消費者物価指数月報」

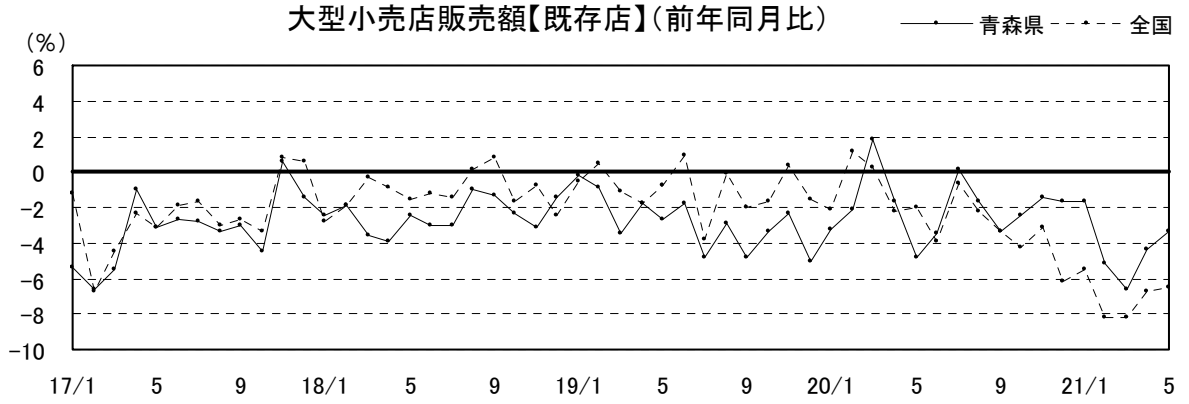
※　**寄与度**とは、ある費目の指数の変動が、総合指数の変化率のうち何ポイント寄与したかを示したものであり、全費目の寄与度を合計すると、総合指数の変化率に一致する。

（２－４）個人消費

平成２１年５月の大型小売店販売額は全店舗ベースが 134 億円で、前年同月比 0.5%減と６ヶ月連続で、既存店ベースでは 3.3%減と 10 ヶ月連続で減少となった。衣料品、家具家電・家庭用品等が伸び悩んだことなどから、既存店ベースで百貨店は３２ヶ月連続で、スーパーは５ヶ月連続して前年を下回った。

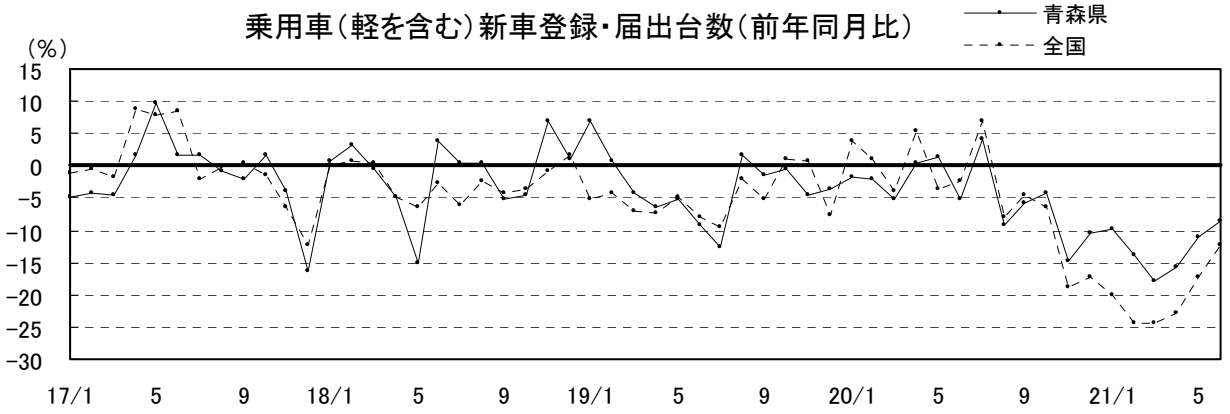
平成２１年６月の軽自動車を含めた乗用車新車登録･届出台数は 3,338 台で､前年同月比 8.5%の減となり、１１ヶ月連続で前年を下回った。普通車が増加したものの、小型車、軽乗用車が減少したことによる。





資料：東北経済産業局「東北地域大型小売店販売額動向」

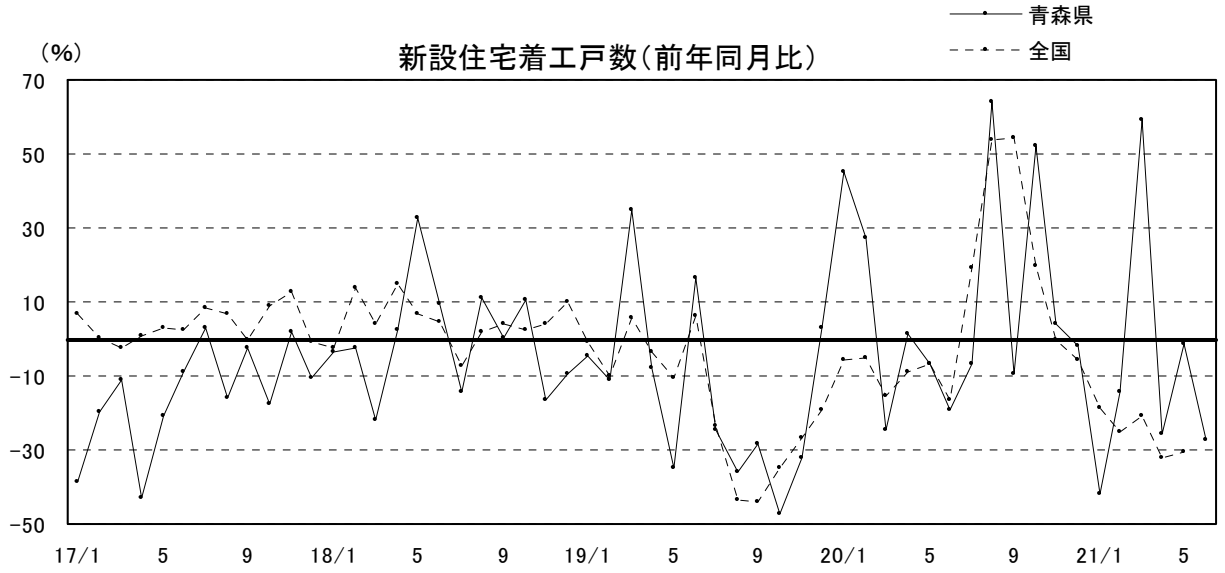
＊　大型小売店は従業員が 50 人以上で売場面積が 1,500 平方メートル以上の商店をいう。そのうち、既存店とは、当月及び前年同月とも調査の対象となっている商店をいう。



資料：青森県自動車会議所「車種別登録・届出台数」、日本自動車販売協会連合会「自動車統計データ」

（２－５）住宅建設

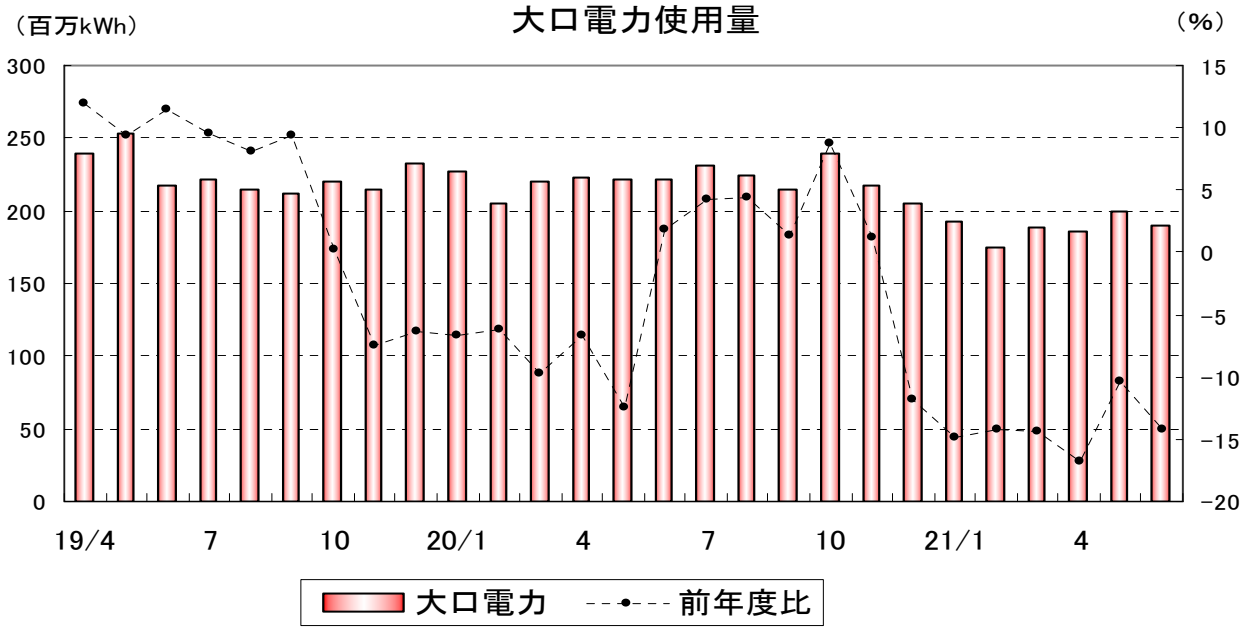
平成２１年６月の新設住宅着工戸数は514戸で、前年同月比27.5%減となり３ヶ月連続で前年を下回った。持家、貸家、分譲がいずれも減少したことによる。



資料：県建築住宅課「建築着工統計」、国土交通省「建設統計月報」

（２－６）電力使用量

平成２１年６月の大口電力使用量は１億9,024万kWhで、前年同月比14.3%減となり、７ヶ月連続で前年を下回った。



資料：東北電力(株)青森支店「電力需要実績」

（３）青森県景気動向指数

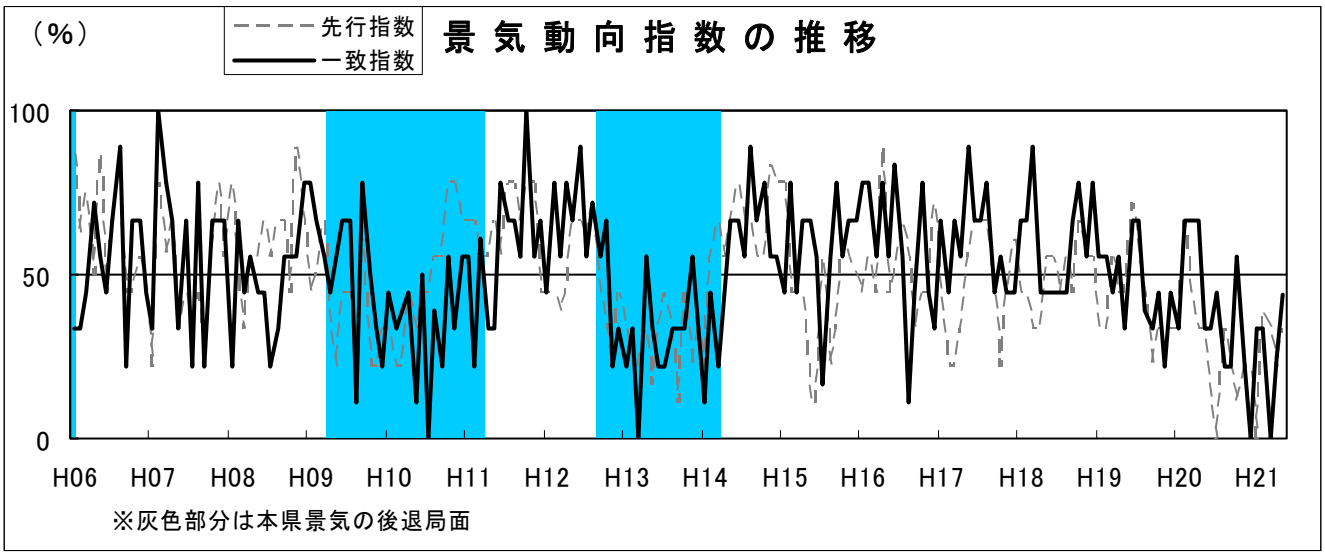
平成２１年５月の青森県景気動向指数は、先行指数３３．３％、一致指数４３．８％、遅行指数０．０％となった。

先行指数は、１５か月連続で５０％を下回った。

一致指数は、７か月連続で５０％を下回った。

遅行指数は、１０か月連続で５０％を下回った。

５月の一致指数は、消費、生産、雇用関連等の指標がマイナスとなったことから、５０％を下回った。



●個別系列の動き（各指標は季節調整等を行い、５ヶ月前と比較しています）

プラスの指標		マイナスの指標	
先 行 系 列（９指標中３指標がプラス）			
新設住宅着工床面積	３か月ぶり	乗用車新車登録届出台数	１７か月連続
建築着工床面積	８か月ぶり	生産財生産指数	９か月連続
企業倒産負債額	４か月連続	新規求人倍率（全数）	１４か月連続
		所定外労働時間指数	１３か月連続
		入職率（製造業）	２か月連続
		中小企業景況ＤＩ	４か月ぶり
一 致 系 列（８指標中３指標がプラス）			
鉱工業生産指数	１３か月ぶり	大型小売店販売額（既存店）	４か月連続
総実労働時間数（全産業）	２か月連続	電気機械生産指数	１４か月連続
海上出入貨物量（八戸港）	３か月ぶり	大口電力使用量	７か月連続
		有効求人数（全数）	２０か月連続
※日銀券月中発行高は、６か月ぶりプラスの後、保合			
遅 行 系 列（６指標中プラスの指標なし）			
		勤労者世帯家計消費支出（実質）	３か月ぶり
		常用雇用指数（製造業）	２１か月連続
		１人平均月間現金給与総額	１２か月連続
		単位労働コスト（製造業）	８か月ぶり
		輸入通関実績（八戸港）	９か月連続
		青森市消費者物価指数(帰属家賃除く)	７か月連続

資料：県統計分析課「青森県景気動向指数月報」

※一致系列の物流関連指標「東北自動車道ＩＣ利用台数」については、ＥＴＣ割引（ETC搭載車は休日の高速道路上限1,000円乗り放題）が平成21年3月28日(土)・29日(日)から実施されたことによる影響を受けるため、当面の間、判定に用いないこととする。

（４）青森県景気ウォッチャー調査

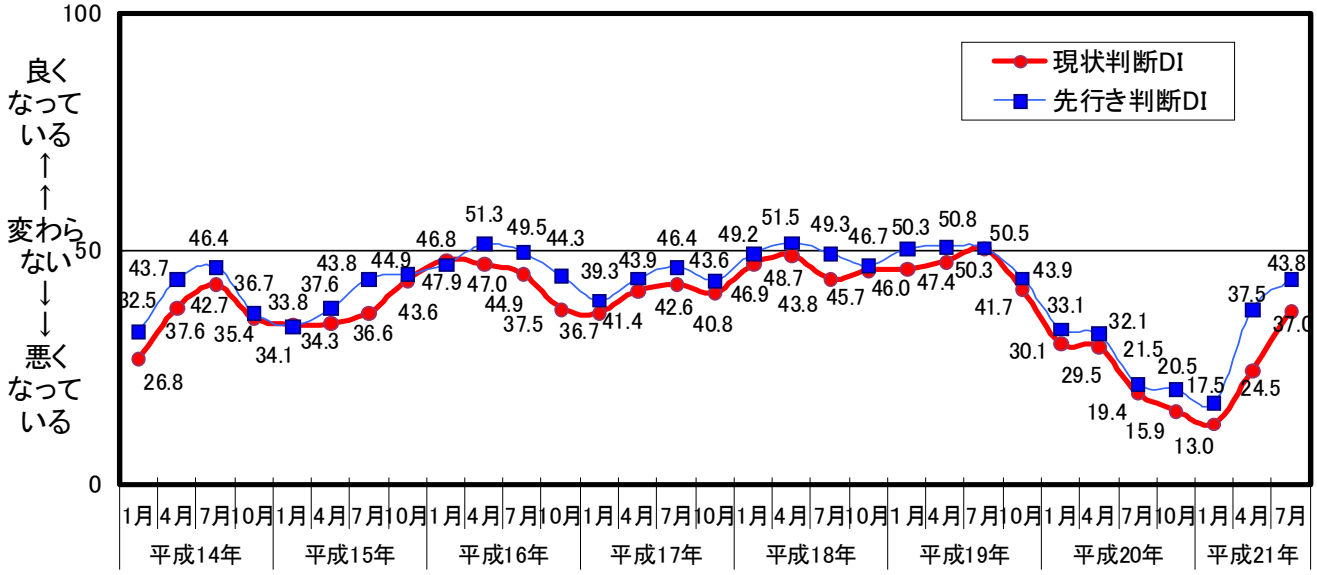
平成２１年７月期の景気ウォッチャー調査は、７月１日～７月２０日を調査期間とし、回答率は１００％となった。

３か月前と比べた景気の現状判断ＤＩは３７．０で、前期調査を１２．５ポイント上回った。

３か月後の景気の先行き判断ＤＩは４３．８で、前期調査を６．３ポイント上回った。

７月期は、景気の現状判断ＤＩ、先行き判断ＤＩともに、横ばいを示す５０を８期連続で下回っているものの、上昇に転じた前期調査から２期連続で上昇した。

景気現状判断DI・先行き判断DIの推移



●３か月前と比べた景気の現状判断

動向	前期調査と比べると、「悪くなっている」が１９．７ポイント減少、「変わらない」が２１．４ポイント増加したことにより、全体では１２．５ポイント上昇の３７．０となり、景気の横ばいを示す５０を８期連続で下回っているものの、７期ぶりに上昇に転じた前期調査から２期連続で上昇した。 判断理由をみると、消費者の低価格志向や必要最小限の購入が定着し、依然として悪い状況のまま横這いという声が多かったが、一部では徐々に受注が増えているという声もあった。 前期調査に比べて、東青、津軽、県南、下北、全ての地区においてポイントが増加したが、依然として、横ばいを示す５０を下回った。

●３か月後の景気の先行き判断

動向	前期調査と比べると、「悪くなる」が５．３ポイント、「やや悪くなる」が６．６ポイント減少し、「変わらない」が５．１ポイント、「やや良くなる」が５．８ポイント増加したことにより、全体では６．３ポイント上昇の４３．８となり、景気の横ばいを示す５０を８期連続で下回っているものの、８期ぶりに上昇に転じた前期調査から２期連続で上昇した。 判断理由をみると、中央では改善傾向にあるが地方の景気回復には時間がかかるという声がある一方で、エコ減税やエコポイントなど経済対策効果が広がってきている、今後の景気対策の効果に期待するという声も目立った。 前期調査に比べて、東青、津軽、県南、下北、全ての地区においてポイントが増加し、県南地区においては５０．８となり景気の横ばいを示す５０を８期ぶりに上回った。

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」

（参考）景気ウォッチャーによる景気判断理由（一部）

●３か月前と比べた景気の現状判断理由

○2月が底でそれ以降徐々に受注が増えているため。（電気機械製造=津軽）

□少し前までは、給料日・年金支給日・ボーナス支給日後は売上が上がったものですが、最近はその日限りか続いても２日ぐらいのものである。今後に不安を抱え、生活していると思われる。（パチンコ=県南）

□景気は底入れしたとの政府発表がされているが、そのような実感は無い。インフルエンザが真っ盛りの頃は電話をとるとキャンセルの連続であったが、新型インフルエンザが落ち着いてきた分、人も出歩くようになってきている。（旅行代理店=県南）

□今年のG.Wは予想通り、人も物も近年になく動いたが、５月終わってみれば、去年と同じ数字。青森県及び地域内では動いていないという事。（食料品製造=下北）

△お客様の入り込みが全く無い日が増えている。団体客や学生の宿泊がない（学校のイベントに係る宿泊）。ねぶた祭りの予約が例年に比べてかなり減っている。（観光型ホテル・旅館=津軽）

△相変わらず、街中が静まりかえって活気がまるで無い。今年に入り、市内で２ヶ所同業のガソリンスタンドが閉鎖になってしまった。（ガソリンスタンド=下北）

×高値の商品が売れなくなった。とうとう当社の顧客もサイフのひもを締めはじめた感がある。（旅行代理店=東青）

×当社の売上・収益とも低下。問屋や小売店サイドが過度なまでの低価格競争により生産者を追い詰めている。経済概念崩壊傾向にある。（食料品製造=東青）

×お客様の方から価格見直しのお願いや、通常発注のあった仕事がなくなったり、入札に至っては、利益がないに等しい価格での競争がさらに進み、仕事量が減るばかりか利益率が悪い仕事が多い。（広告・デザイン=県南）

●３ヵ月後の景気の先行き判断理由

○エコ減税や省エネ家電の促進といった経済対策効果は広がって来ている。厳しい雇用情勢はまだまだ続くものと思われるが外需の上向きが好影響を与える可能性がある。（人材派遣=東青）

□在庫調整ができた製造業等に関しては、一部回復傾向が見られると言うが、この地域では感じられない。（住宅建設販売=津軽）

□悪い状態に慣れてきた感じがするので、多少のことでは感じなくなってきた。（一般小売店=津軽）

□仕入れの価格が高どまりのまま大手スーパーは低価格商品に販売の方向転換しているので、納入業者は非常に厳しい。（食料品製造=津軽）

□当面、企業のコスト意識（人件費含む固定費抑制）は、変わらないと考える。（人材派遣=県南）

△低価格品（食品、飲料等）は増加しているが（内食需要の効果もある）、装身具、家電、大工等の不要不急品の落込みが大きい。定額給付金が一巡し、消費マインドは冷え込みそう。（家電量販店=東青）

△雇用、所得環境の悪化で生活防衛意識が高くなっている。また、原油の高騰も影響しそう。（スーパー=県南）

×お客様の話から、昇給凍結やボーナス減額の話題ばかり出てくる。（乗用車販売=県南）

×経済全体では底打感を言っているみたいですが、それに合せたように燃料が徐々に上って来ています。地方は常に遅れをとり、経営逼迫の方が先にくるようです。（タクシー=下北）

記号の意味：◎良くなっている、○やや良くなっている、□変わらない、△やや悪くなっている、×悪くなっている

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」